

大木冢貝塚と七ヶ浜歴史資料館

七ヶ浜半島には縄文時代（紀元前 10,000 年-紀元前 300 年）に栄えた集落が存在していたことから、七ヶ浜は考古学的に重要な地域です。閉じた湾と外海の両方に近い高台のこの土地は、人々が定住するのに理想的な場所でした。

七ヶ浜歴史資料館から歩いてすぐの場所にある巨大な大木冢貝塚は、考古学者たちに重要な発見をもたらしました。この場所で見つかった貝殻や骨、道具、土器の破片をもとに、研究者たちは縄文時代の暮らしの様子を正確に把握することができました。七ヶ浜歴史資料館では、この地域に特徴的な渦巻き文様がつけられた土器の数々をはじめとする展示資料を通して、技術（と創造性）の進歩を見ることができます。また、この資料館には海苔づくりに使われた道具や伝統的な民家の内部を再現したものなど、より後の時代の資料も展示されています。

大木冢貝塚は 1968 年以降、国指定史跡として保護されています。この遺跡は現在、19 ヘクタールの広大な公園に囲まれており、公園内では気持ちのよい遊歩道、松島湾を一望する景色、そして春に花を咲かせる約 200 本の桜を楽しめます。これらの桜には多くの日本古来の野生種が含まれています。